ふれあい さいせい

発行
済生会西条病院
2011年　夏号　第52号
西条市朔日市269-1
TEL(0897)55-5100

宇和海合同診療に参加しました
院長　岡田　眞一
済生会創立100周年記念式典に出席して
看護部長　大仲　道子
永年勤続特別表彰を受けて
用度課長　一色裕見子
宇和海合同診療が行われました
事務次長　矢野　泰利
うなぎ　大試食会
いしづち苑 介護福祉士　川崎　裕子
ニューフェイス
院内ボサノバコンサートを開催しました
医療情報管理室　神原　勝己
節電についてのお願い
ワークアウト委員会　大森　拓朗

宇和海合同診療に参加しました　院長　岡田眞一

院　長
岡田　眞一

今年の３月11日に発生した東日本大震災から、もう６か月が過ぎました。大地震と大津波は、福島第一原発に大きな被害を及ぼし、それは未だ収束していません。今後、放射線の健康への影響が大きな問題になってくると予想されます。被災地の一日も早い復旧・復興を願っています。全国の大病院は、震災直後からDMATを派遣し、早期の支援を行いました。当院は、災害時の支援体制ができていなく、また人的な余裕もなかったため、被災地に職員を派遣することができませんでした。予期せぬ事態にも対応できる院内の体制を早期に整備していきたいと思います。

さて、当院は今年度から３年間、済生丸による宇和海合同診療を担当することになりました。私も７月12日から３日間行われた２次検診に参加してきました。今年でもう44回目となります。参加メンバーは済生会松山・今治・西条病院の職員と臨床研修医の総勢40名です。朝早く、宇和島港に停泊中の済生丸に乗船し、宇和海に浮かぶ嘉島、竹ヶ島、戸島、日振島の４つの島に、１時間から１時間半かけて向かいます。交通の便が良くなったのは陸地だけで、離島はやはり医療過疎地です。内科、整形外科、乳腺外科、眼科、小児科の診療と、栄養士・保健師による栄養指導、保健指導を行いました。診療が終わり、島から船が離れる際、島の人々が、別れを惜しみ、いつまでも大きく手を振る姿が感動的でした。忘れていた医療の本来の姿が思い出され、来てよかったと心地よい気持ちになりました。

この済生丸は、平成７年の阪神・淡路大震災時に、海からの救援活動に使用され活躍しました。そして翌年、菅直人厚生大臣（現在の総理大臣）に表彰されています。今の済生丸は3代目ですが、もう20年以上たち老朽化が目立ってきました。済生丸は済生会のシンボルであり、瀬戸内海巡回診療を続けるには、新しい船が必要です。済生丸診療が長く続けられるよう、皆さまの温かいご支援をお願い致します。

済生会創立100周年記念式典が開催されました。

平成23年5月30日　東京・明治神宮会館での式典の様子

天皇皇后両陛下

天皇陛下のおことば

済生会総裁　寛仁親王殿下

常陸宮同妃両殿下

済生会創立100周年記念式典に出席して

看護部長
大仲　道子

５月30日、済生会創立100周年記念式典が東京・明治神宮会館で開かれ、愛媛県支部施設の一般参加者として選出・出席させていただきました。

式典開催地へは、前日の５月29日に飛行機で出発しました。前日から大型台風の情報がテレビで流れており、便が欠航になるのではないだろうかと不安でしたが、定刻通り搭乗・離陸できました。飛行中は大揺れで、機長から「気流の関係で揺れていますが、飛行には影響ありません」と何回かアナウンスされました。結構揺れたので内心心配していましたが無事到着した時はほっとしました。式典は11時からでしたが、私達出席者は10時までに会場に入らなければなりませんでしたので、遅れないように時間にゆとりを持ってホテルを出ました。最寄り駅の明治神宮駅は記念式典に出席する人で列ができていました。受付を済ませて、会場に入るとすでに大方席は理まっていましたが、左側列の宮家席の後ろの一般席が空いており、私達は前から５列目に着席することが出来ました。

「君が代斉唱」の楽団入場後は、会場からの出入りは禁止になり、席も立つことも出来ません。出席者は緊張した面持ちで式典開始を持っていました。11時すぎに天皇皇后両陛下がお席に着きになり、式典が始まりました。壇上に近い席でしたので、天皇皇后両陛下、常陸宮 同妃両殿下、総裁 寛仁親王殿下、来賓の菅総理大臣、横路衆議院議長、西岡参議院議長、細川厚生大臣、東京都知事（代理吉川副知事）を間近で拝見することができ、また天皇陛下のお言葉を直接聞くことができましたので、感動で胸が一杯でした。

私は済生会職員として長年勤務できたことを誇りに思い、感動と責務を感じながらこの式典に出席しておりました。改めて、済生会組織の歴史の重さを身体で感じ、歴史ある済生会組織の職員であることに誇りを感じました。私は昭和60年に済生会に再就職しましたので、この26年間は長いようで短かったようにも思います。済生会の節目である100周年の記念式典に出席させて頂きありがとうございました。私が西条病院の看護職の代表として、式典に出席できたことはいつもスタッフが支えてくれたおかげだと感謝しています。今後も自分に与えられた職務を、職員と一致団結し、済生会精神である「医療に恵まれない全ての人々に手を差し伸べる」「救療済生」を心に留め、済生会がつぎの100年に向かって、力強く歩んでいけるよう人材育成と済生会西条病院の発展にスタッフの皆さんとともに努力していきたいと思います。ありがとうございました。

永年勤続特別表彰を受けて

用度課長
一色 裕見子

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から未だ３か月も経過していない平成23年５月30日、明治天皇の勅語によって「施薬救療」の意志を受け継いできた済生会は、創立100周年を迎えました。

こういった時期でもあり、式典も自粛で中止かと思われていました。また、式典前日には台風２号の影響で、東京への出発も危ぶまれながら、しかし、全員無事参加できることとなりました。

済生会記念式典は、明治神宮会館で行われました。当日は雨もほとんどあがり、式典会場までの外苑の砂利や木々さえも厳かな雰囲気を漂わせていました。

式典会場内は、既に数多くの出席者が席を埋め、式典を待ち望んでおりました。徐々に報道関係のカメラ、吹奏楽団の入場などが始まってくると、何ともいえない緊張感が体に伝わってきました。司会者のアナウンスとともに幕が上がり、壇上には済生会総裁 寛仁親王殿下はじめ菅内閣総理大臣、衆参議長など錚錚たる顔ぶれが鎮座されていました。

天皇皇后両陛下が、上手から入場されると同時に私たちのすぐ近くの座席（皇室関係者と貼り紙された席）に御付らしき人たちが、楚々としたたち振る舞いで入ってこられました。天皇皇后両陛下を数メートル先で拝見できた時は「皇室の方と同じ空間にいる」自分に感動を覚えました。

皇后陛下は、済生会会長や来賓者の挨拶に優しい眼差しで傾聴されているお姿が印象的でした。

しかし、一番心打たれたのは、寛仁親王殿下の力強い御言葉です。「済生会が済生会としてこれからの100年に向けて頑張ってほしい」と述べられました。

記念品は置き時計・・・これからの済生会を刻一刻と刻む時計が記念品となったのであろうと自分ながらに思い巡らせております。

一生のうちで経験できないであろうことが、済生会西条病院に就職し39年の在職中に済生会100周年に臨むことができ、尚且つ表彰状までいただき本当にありがたく思います。
済生会精神を胸に今後も業務に励んでいきたいと思います。

最後に、被災地が一日も早く復興することを心よりお祈りします。

永年勤続特別表彰者（西条病院）
事 務 長・小野　晃照
用度課長・一色裕見子

～平成23年度の宇和海合同診療が行われました～

事務次長
矢野　泰利

竹ヶ島に接岸中の済生丸

今年も済生丸による宇和海合同診療が、５月と７月の２度にわたり、当院が幹事病院として行われました。この宇和海合同診療は、愛媛県済生会の主催で宇和海に浮かぶ離島（日振島・竹ケ島・戸島・嘉島・大島）の島民の検診や診療を行う毎年恒例の合同診療で、愛媛県内の済生会病院（今治病院、松山病院、西条病院）３施設が３年ごとに幹事病院を持ち回りで行っています。今年度は、非常に天候にも恵まれ一次、二次を合わせて延べ９００名余りの島民が診療に来られました。

～検診が中心の一次、検診初日から診療所の先生から厳しい一言～

一次の合同診療は、島民の血液検査や胃透視、子宮がん等の検診業務が中心で、５月17日～20日までの４日間行われ、延べ500名余りの島民の方が検診を受けに来ました。前日に部門ごと（看護部・放射線部・検査部・事務部等）に、業務の流れや分担等の打ち合わせを行っており、比較的順調に業務をこなすことができました。

また、この一次検診については、島民の生活時間帯に合わせるため、午前３時半にはホテルを出発し午前６時には検診が開始されるなど、ハードなスケジュールで行われたにもかかわらず、各病院の検診スタッフや島民の方たちともコミュニケーションがよくとれており、いたるところで笑顔が見られるなど、とても明るい雰囲気の中で検診が行われました。

一次検診で唯一反省すべき点は、検診初日に離島の診療所の先生から「あなたたちは、島民の健康管理を目的に検診へ来ているのに、煙草の臭いをさせながら検診を行っているのはいかがなものか？」「すごく矛盾していると思うが？」と、喫煙に関して非常に厳しい一言を言われ、スタッフ一同初日からへこんでしまい、今後、愛媛県済生会としてどのように対応するのか、大きな宿題を突きつけられたような気がします。

検診場所に向う済生会スタッフ
－ 嘉島にて －

～診療が中心の二次、済生丸の意義を改めて認識～

二次の合同診療は、内科、小児科、外科、整形外科、眼科等医師による診療が中心で、当院からは７月12日～14日までの３日間、岡田院長をはじめ、小橋外科部長、大森内科部長、廣瀬整形外科医師の４名が参加し、延べ400名余りの島民の診療を行いました。済生丸での診療は、宇和島市の島民の協力で島内の公民館や集会場、学校に簡易な診察室を設置し、医療機関と行政及び島民が一体となって取り組んでいます。

離島での診療は、医療機器に恵まれているわけでもなく、また医薬品等も限られており、けっして島民が満足のできる診療を提供することはできません。しかし、島民のほとんどが、毎年この診療を受けに来ていることから、島民との長年の信頼関係の元に成り立った、済生丸診療の歴史の重みを感じました。

診察開始を待つ済生会スタッフと島民
－ 戸島にて －

現在、済生丸についてはその存続に関していろいろ言われていますが、どうやら新造船（済生丸Ⅳ生号）の建設も行われ、済生丸による診療も継続されるようです。今年の反省会で、ある先生が研修医に「病院の中にいて患者が自ら訪れる医療もあれば、済生丸の診療のようにこちらから出向く医療もある。どちらも必要な医療であることに変わりない。今後も済生丸の診療は続けるべきである」と力強くおっしゃっているのが非常に印象的でした。

最後になりましたが、日々の多忙な業務にもかかわらず、済生丸から持ち帰った検査データーの処理やレントゲンフィルムの読影、カルテ整理をしてくださった外科、内科、放射線科の各先生方誠にありがとうございました。

うなぎ 大試食会

いしづち苑主任 介護福祉士 川崎　裕子

二十四節気のひとつ、立夏を目前にした４月末から月に１度、苑長先生の『五感を刺激する』というコンセプトのもと、うなぎの大試食会が行われています。

五感を刺激すると脳の働きが活性化され免疫力が高まるといわれています。五感がバランスよくあることは、健康な身体を維持するためにとても大切なのです。

うなぎを目の前で焼いているのを見る視覚、ジュワッ～という焼けている音を聞く聴覚、食欲をそそるタレの匂いを嗅ぐ嗅覚、待ちに待った味覚という至福のひととき。

利用者さんも匂いに釣られてうなぎを焼いている中庭に一人、また一人と出てきます。この頃には「早く食べさせて…」という言葉があちらこちらから聞こえてきます。うなぎだけでご飯が空っぽになった利用者さん。いつもは食の細い利用者さんも、うなぎはペロリと食べられてました。「もうこれで終わり？」「おかわり頂戴」などと嬉しい不満の声もありましたが、最後には「ありがとう、とっても美味しかったよ！」の言葉を聴くことができたため安心しました。

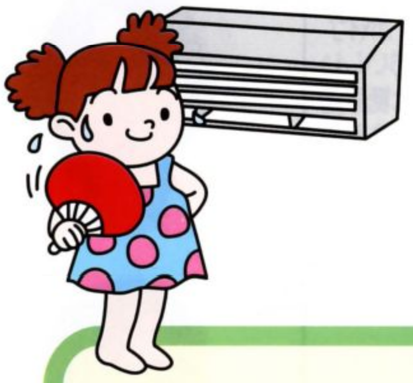
これからもいろいろ趣向を変えて、取り組んでいこうと思います。

院内ボサノバコンサートを開催しました

医療情報管理室　神原　勝己

ボサノバ音楽には風のようなリズムと優しさが満ち溢れています。
地球の裏側、南米で生まれたこの音楽は、その暑い気候からは想像もできないやさしさ。例えるなら夏の木陰で風に吹かれてゆっくりと過ごすような心地よさがあります。

今回も歌手のMAKOさん、7弦ギタリストのYasoさん、ベーシストのJojiさんの3人をお迎えして、実に4年ぶりとなる院内コンサートを開催しました。MAKOさんの透き通った声に7弦ギターの温もりある音と芯を支えるベースの低音。サンバと情熱の国とはどこかちがう、穏やかでリズミカルな癒しのひと時に、観客の皆さんも静かに聞き入っていました。



がんばろう　節電

ワークアウト委員会　内科部長　大森　拓朗

関東地方では東日本大震災の影響で各方面で節電が実施されているようですが、当院でもワークアウト委員会を中心として、がんばろう節電を合言葉に全職員が節電を行っております。節電というとやはりエアコンですが、それ以外の電子機器もいくらか電力を消費します。そこで当院では以下の節電対策を実施することになりました。

1. 各部署にてエアコン、パソコン、照明、プリンターのタイムスケジュールを作成する。
   （たくさんある電力消費する用具を時間を決めて止めてしまうことです）
2. 職員のエレベーター使用を少ない階では控えてもらう。
3. 節電対策ポスターの掲示。節電の啓蒙活動。

そのほかエアコンの温度設定の変更、照明の間引きなど実施しております。
外来、入院など職員以外のみなさまにはご迷惑をおかけすることもございますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。